

職員による自己評価

A環境面

利用者の人数によっては狭く感じることもあり。

B児童への支援内容

商業地域の特性を活かし、買い物などいくところがある。

公共交通機関を利用し通所帰所の支援をしている。

コロナ禍の為、外出ままならず。

C関係機関との連携

基幹センターや区役所のワーカー、計画相談員と連絡を密にしている。

D保護者への説明責任・信頼関係

面談を半年に一度行っている。

何かあればすぐ保護者に連絡している。

E非常対応

保護者の携帯に連絡

保護者による評価

A環境面

バリアフリー化されていないところがある。利用者数によっては狭く感じることもある。

B児童への支援内容

特になし

C事業所からの情報発信

面談を半年以内に行っている。

コロナ禍のため、保護者会など開催できず。

D非常対応

問題なし

事業所内での分析

【共通点】

非常時の対応。活動内容の見直し。

買い物学習は休日に買い弁などで対応している。

【相違点】

活動プログラムに関して、固定化しないよう工夫しているが、学習がメインのため固定化されているように感じているのではないかと。学習の内容を検討していく必要あり。

コロナ禍で外出、外食イベントなど開催できず。

分析・検討してみても…

事業所の強み

生活スキルをみにつけるための、取り組みを色々行う環境が整っている。

公共交通機関を使った自力での利用にむけての支援をしている。

就労、自立にむけての学習支援をしている。金沢文庫と併用利用することで、就労に向けて下級生の面倒をみるなど、スタッフの手伝いを指示に従って行動できるようになる。

教員や保育士、介護職の経験があるスタッフがおり、多様なサービスの提供ができる。

また学生アルバイトも多くおり、いろいろな年齢層のスタッフとかかわることができる。

事業所の改善点

日野中央特別支援学校などの受験に向けて、また、就労に向けての取り組みをどうしていくか。

学習支援、就労支援に対し内容を検討していく必要あり。

スタッフのスキルアップのための研修会など。

それぞれの利用者の特性にあった支援の見直し。

ホームページ更新をこまめにし、プレップの支援、活動内容を知ってもらうこと。

事業所の改善への取り組み

- ・学習を通して生活スキルアップ、就労、自立へ向けての取り組みを試行錯誤しながらスタッフと取り組んでいきたい。
- ・利用者の特性にあった支援をスタッフで共有し取り組んでいきたい。
- ・保護者のニーズにあった支援を今後もできるだけ提供していきたい
- ・コミュニケーション能力を向上し、自分の強み弱みを理解できるように支援していきたい。
- ・意思決定支援に対し取り組んでいきたい。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・金沢文庫プレップからの利用者が多く利用期間が長いので、高評価をいただけたと思います。今後も世の中の状況を見ながら、個々の特性を理解し保護者のニーズに合わせた支援をしていきたいと思っています。